

## ★ハスモンヨトウ及びシロイチモジヨトウ情報

豆類や野菜類を加害するヨトウ類の発生が目立っています。

### 1. 発生状況

#### ①ハスモンヨトウ（写真1）

(1) 9月中旬の当所巡回調査での発生量は、黒大豆、アズキ、ナスで平年比やや多くなっています。

作物	項目	本年	平年値(例年値)
黒大豆	白変葉数(10a当たり箇所数)	11.5	4.3
アズキ	白変葉数(10a当たり箇所数)	9.3	1.4
ナス	幼虫数(頭/葉)	0.14	0.00
キャベツ	寄生株率(%)	0.7	(2.1)
ダイコン	寄生株率(%)	0.0	0.2

(2) 9月第3半旬現在、フェロモントラップへの誘殺数は京田辺市と京丹後市では平年比少ないですが、亀岡市では9月に入って急増しています(図1)。

#### ②シロイチモジヨトウ（写真2）

(1) 9月中旬の当所巡回調査での発生量は、ネギでやや多くなっています。

作物	項目	本年	平年値
ネギ	幼虫数(頭/株)	0.06	0.02
(葉長40cm未満の小株)	寄生株率(%)	4.7	1.8
	発生ほ場率(%)	50.0	14.4

(2) 9月中旬現在、ネギ以外にカブ及びナスでも発生を認めています。

(3) 9月第3半旬現在、フェロモントラップへの誘殺数は京田辺市では平年並ですが、京丹後市で9月に入り急増しています(図2)。

### 2. 気象予報

(1) 大阪管区气象台9月17日発表の近畿地方1か月予報によると、気温は高く降水量はほぼ平年並と予想されており、両種とも増殖しやすいと考えられます。

### 3. 防除上の留意事項

#### ①ハスモンヨトウ

- ほ場を見回り、若齢幼虫分散前の白変葉の早期発見・除去に努めてください。
- 齢が進んだ幼虫では農薬の効果が著しく低下するので、若齢幼虫期の防除が重要です。
- 使用農薬は異なる系統のものを使い、同一系統の農薬の連用は避けてください。
- 最新の農薬情報は農林水産省ホームページの「農薬コーナー」の「農薬情報」で確認してください。

#### ②シロイチモジヨトウ

(1) 齢が進んだ幼虫では農薬の効果が著しく低下するので、若齢幼虫期の防除が重

要です。

- (2) 被害葉及び収穫残さが本種の発生源となるので、一箇所にとまめて積み上げ、表面をビニルで被覆する等適切に処分してください。
- (3) 本種は寄主範囲が広く、ネギ以外に豆類、野菜類、花き類を加害するので注意してください。

詳細は令和元年8月26日付け「病害虫発生予察注意報第6号」参照

<http://www.pref.kyoto.jp/byogai/documents/r1chuui6.pdf>



写真1 ハスモンヨトウ老熟幼虫とアズキでの被害



写真2 シロイチモジヨトウ老熟幼虫とネギでの被害

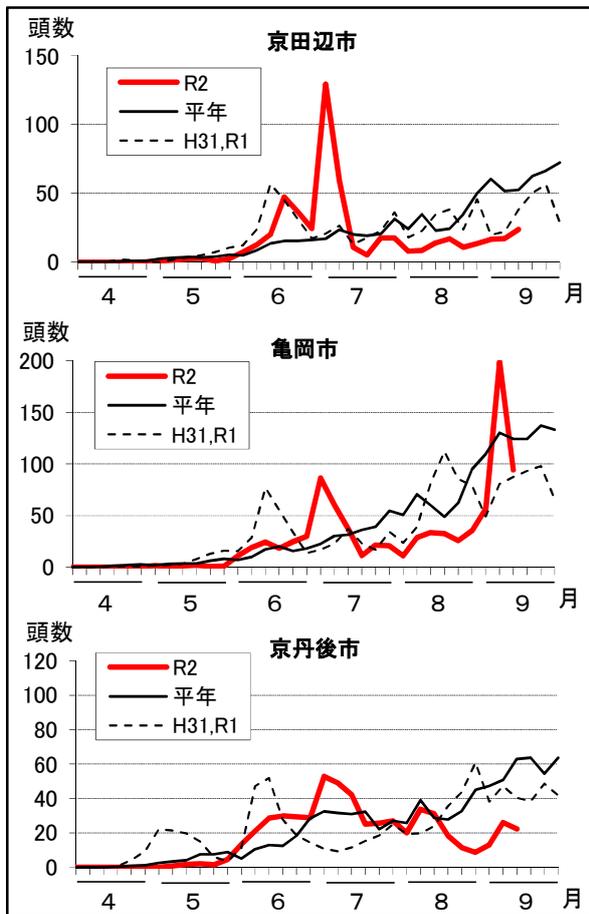


図1 フェロモントラップへのハスモンヨトウの誘殺状況

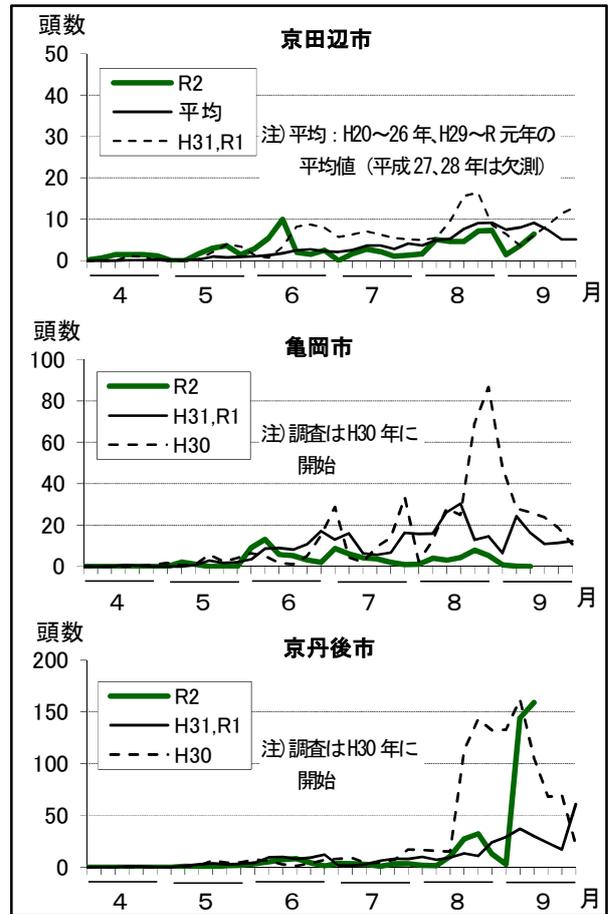


図2 フェロモントラップへのシロイチモジヨトウの誘殺状況